

## 「イノベーションの実現に向けて」

### Progress toward Achieving Innovations



取締役副社長(開発本部長)

橋本 正一

Masakazu Hashimoto

今回、特集として取り上げるイノベーションについて改めて考えてみました。イノベーション（革新、刷新）は従来にないポジティブで大きな変化であり改善のレベルとは一線を画すものといえます。そこで私見ですが、過去半世紀を振り返り具体的にイノベーションと呼べるものをいくつか挙げてみました。広く社会にインパクトのあったものとして、通信・インターネット技術の進化（携帯でのテレビ通話、キャッシュレス決済、クラウドビジネス）、コンピューター技術の進化（システム制御、自動化、スマート化）、宇宙衛星技術の活用（天気予報、GPS ナビゲーション、マップ）、映像表示技術（液晶モニター、有機ELパネル）、人体・医療技術の進化（iPS細胞、ロボット医療、DNA ゲノム解析）、自動車業界のイノベーションとしては、安全性能の進化・標準化（ABS、エアバッグ、PCS）、新ドライブトレイン技術（HV、FCV）などでしょうか。これらはいずれも総じてコアな技術革新をベースに社会に実装されたイノベーションであるといえます。

一橋大学イノベーション研究センターの延岡教授によると、これらは「機能的な価値」、「ものづくり」をベースとしたイノベーションであり、日本は比較的得意としている商品企画と生産技術を活かし世界をリードし貢献してきました。しかしながら今後のイノベーションには従来の「機能的な価値」に加え、顧客が主観的に意味づける「意味的価値」が重要となってくると指摘しています。（ダイヤモンドクォーターリー SPRING2018）

今回、特集論文で取り上げる豊田合成の新領域・新技術 e-Rubber や GaN 半導体などがイノベーションと呼ばれるインパクトを生み出すには、コア技術の完成度を高めることだけでなく、社会、顧客の「意味的価値」が何であるかをしっかり把握した上で、それを第一優先に企画・開発・事業化を進めることが求められます。その実行では社内外の志を同じくする仲間作りが重要であり、自前主義に拘らず、オープンで広いネットワークを持った姿に私たちが変身していく必要があります。そのためには従来の仕事のやり方の変革に加え、社外とのアライアンスで成功体験を積み重ねていく必要があります。今回特別寄稿をいただいた株式会社アイピーアライアンスの木嶋様もイノベーションを推進する企業には「超フレキシブル」な能力が求められるとご指摘されています。是非本稿をご熟読いただき、皆さんの理解を深め具体的な活動に繋げていただきたいと思います。

豊田合成は2025年事業計画で“大きな環境変化に柔軟かつ迅速に対応し、世界のお客様に「安心」「安全」「快適」をお届けするグローバルカンパニー”を目指すとなりました。この実現の過程ではいくつかのイノベーションに対する貢献とその成果が問われることとなります。私たちは一人ひとりがそれぞれの立場で貢献できるように自身の実力を鍛え、顧客がワクワクする「意味的価値」のある成果を提供できるよう共に努力していきましょう。